

## 駐車場での事故を防ぎましょう

車の運転の中でも「駐車は苦手」という方は多いのではないのでしょうか？駐車場では視界の悪いバック走行をしなければなりませんし、他車などが作り出す死角も多く存在するため、事故の危険も少なくありません。最近では駐車をサポートする運転支援装置も多くの車に搭載されていますが、これに頼りすぎるのも事故の元となります。


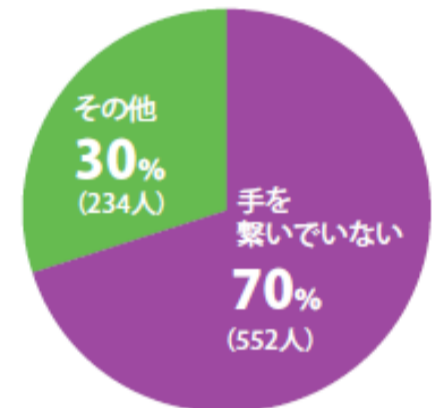
### ◇駐車場に子供がいたら要注意

6歳以下の子どもでは保護者等の不注意による事故が目立っており、事故にあった70%の子どもが保護者と手を繋いでいませんでした。調査では手を繋いでいなかった理由として「突然手を振りきった」という回答も目立ちますが、子どもは予期せぬ動きをするので、手を繋いでいても決してその動きから目を離してはいけません。また、子どもは駐車車両の陰から飛び出して事故にあうことも多いので、駐車場を走行する際には子どもとの接触に十分注意するようにしてください。

○判例紹介

**駐車場歩行者に気づかず衝突し、約3,816万円の賠償責任**

2014年9月19日正午ごろ、神戸市西区のテーマパークの駐車場で、買い物を終えて出入口付近を横断していた男性(81歳)が、女性が運転する乗用車と衝突し車体に巻き込まれて死亡しました。この事故の民事訴訟で裁判所は、乗用車は徐行していたものの、運転者が前方左右を注視すべき義務を怠った過失は相当に大きいとし、95%の過失を認め、慰謝料や逸失利益として約3,816万円の損害賠償の支払を命じました。(神戸地裁 2015年5月25日判決)

駐車場事故における保護者等の不注意の構成比  
(イタルデザインフォーメーションNo.115：(公財)交通事故総合分析センター)

### ◇バックモニターにも死角がある

バックモニターには左右上下に死角があり、自車の後方を全て映し出すわけではありません。とくに左右から歩行者が接近してきた場合には発見が遅れてしまいます。またモニターに映し出される映像も、遠近感などが実際の目視とはかなり異なっており、距離感が掴みにくいので、誤って障害物等に衝突するおそれがあります。あくまでバックモニターは駐車の際の補助装置と考えて、目視やミラーを中心に安全確認を行ない、バックモニターだけに頼る駐車を避けるようにしてください。



バックモニターは左右から接近する歩行者等を映し出さない  
※カメラの位置や機能によって、角度は若干異なります

### ◇駐車スペースの前に停止して安全確認

駐車場で駐車スペースを見つけたら、一旦停止をして目視で「障害物はないか、車止めはあるか」といったことを確認するようにしてください。一旦停止をすることで、駐車しようとしている駐車スペースの状況を確認する癖がつきます。とくに車止めの有無の確認を忘れてしまうと、壁に衝突したり、後方に駐車している車両にぶつかったりしてしまいますので、まずは駐車スペースの状況をしっかりと確認することを意識するようにしてください。



駐車スペースの前で一旦停止し安全確認をしましょう

運転者として  
知っておきたい知識

誤発進抑制機能や駐車支援システムも**万全**ではない

自動車メーカーでは駐車場での事故を防止したり、より快適に駐車ができるといった支援装置を開発しています。しかしながら、これらの装置が装備されていても安心は禁物です。誤発進抑制機能はアクセルをブレーキと誤って踏んでしまった際に加速を抑制する安全装置ですが、障害物の形状によっては作動しないことがあります(右表1参照)。駐車支援システムについては、自動でハンドルを操作して駐車を支援してくれる装置ですが、これも使用できない場所(右表2参照)が定められているので注意が必要です。

- 誤発進抑制機能が検知できないおそれのある障害物(表1)**
- ・背の低い障害物
  - ・幅の狭い障害物
  - ・針金、フェンス、ロープなどの細い障害物
  - ・バンパーに非常に近い障害物
  - ・急に進行方向に現れた障害物

- 駐車支援システムを使用してはならない状況例(表2)**
- ・傾斜、段差のある路面
  - ・機械式駐車場
  - ・砂利などの整備されていない路面
  - ・滑りやすい路面
  - ・タイヤチェーンなどを装着しているとき